氏名 小山 理恵

所属 岩手医科大学附属病院　産婦人科

役職 特任教授

これまでのキャリア

平成２年３月　金沢医科大学医学部　卒業

平成２年５月　岩手医科大学産婦人科学講座入局

平成 14 年８月　Mayo Clinic in the Department of Obstetrics and Gynecology. visiting clinician

平成 23 年７月　岩手医科大学産婦人科学講座　講師

平成 24 年３月　Harvard Medical School 留学　Fellow

平成 28 年６月　岩手医科大学産婦人科学講座 准教授

令和２年４月　岩手医科大学附属病院医師卒後研修副センター長

令和３年４月　岩手医科大学産婦人科学講座 特任教授

私のもとではこれが学べる

1. 周産期医療（研修指定病院）

一番：目指すことは、当院および岩手県の妊産婦死亡例ゼロを保つよう産科知識(基礎と新しい知見)と手技を自身が維持・向上させ後輩へ伝えることである。

二番：診療データを統計解析できるよう、管理システムの構築に万全を期することである。

三番：岩手医科大学附属病院総合母子医療センターで勤務する医師は、多職種と連携をとり高度な医療を持って妊婦・褥婦を救命し得る基幹施設としての確固たる位置づけを、維持することである。

2. 女性医学(研修指定病院)

思春期から更年期女性のライフステージに合った医療を提供する。この分野は医療のみならず、悩める女性の症状を傾聴し治療方針を立案する必要がある。デリケートな診察が多いため、患者の母親との信頼関係を構築することも重要である。最近では、アスリート女性の無月経を含め健康を観察し、時には治療介入が必要となる。一方、女性医学は、婦人科でありながら、脂質代謝、糖尿病、骨粗鬆症を熟知し最低限のアドバイスし専門医に繋げるよう心掛けなければならない。一般的な内科とは異なる女性の健康を維持する医学である。

教育にかける思い

大学生について、講義を充実することが重要であるが、医療職は、社会教育を受ける以前に報酬を受けることも多い職種である。よって報酬を受けるために必要な姿勢、知識と教養を身につける全人的な教育を目指したいと思っています。お勉強のできる医師だけではなく、教養のある医師になるよう人としての教育を行なっていきたいと思っています（細かいことですが、歩きスマホやエレベーターの中で寄りかかってスマホをするのではなく、読書をする人になってほしい）。過去に携わった大学院生の研究指導の経験をもとに、岩手医科大学の名に恥じぬ研究テーマ・内容で指導していきたい。臨床医について、産婦人科専門医と周産期専門医の継続的な育成に努める。長年、私は女性医研究者復帰支援として、女性医に寄り添い臨床現場、学位と学会発表のサポートを行ってきた。今後も女性医の能力を最大限に引き出しよう尽力します。

医学生へのメッセージ

医学生の時は、友達との交友、遊び、ファッション、部活、彼氏・彼女と若い人たちの楽しみが勉強より重要であろう。それも大学生活の思い出の一つになります。友達の多いことと思い出が多いことは、医師になっても心の支えになるでしょう。私自身、今でも大学時代の友達と交流があります。しかし、楽しいことばかりではありません。試験、実習など試練は待っています。自分が医師になるという信念があれば克服できるはずです。

学生時代の成績が、必ずしも医師の活躍とは結びつきません。医師になってからが本番です。だからこそ、学生時代は楽しく、医師になって学生以上の勉強をするつもりでいて下さい。